F 6

家庭科教員養成における授業設計に関する一考察

長崎大教育　　伊波富久美

目的

授業設計を行い、個々の授業を具体的に展開していく上で、学習指導案は授業者に指針を与え、それに基づくことによって、授業は様々な状況の変化に対応可能な柔軟性を備えることができる。また授業者は指導案の作成を通して、そこに盛り込まれている授業設計の要点について認識を深めるであろう。その認識は一連の教授活動を通して持続され、授業を自己評価する際にも、評価の視点として反映されるものと考えられる。本報では教員養成における授業設計の実際を明らかにするために、模擬授業における学生の自己評価を分析することによって検討を行った。

方法

長崎大学教育学部において、昭和62年度と63年度に家庭科教育法Ⅱを履修者した3年生（10名）が行った50分の模擬授業について、授業実施後の自由記述による自己評価を中心に、授業設計の視点から分析を行った。

結果

指導案作成の段階で、単元全体における本時の位置づけがなされ、目標が明確化し、その上に立って授業の具体的な展開を構想していくものと考えられる。しかし実際の授業後の自己評価においては、教材自体の適切さあるいは教材をどの様に配列し、流れを組み立てていくかといった授業の全体的構造・形式への関心は高かったものの、目標に立ち返って、授業展開を吟味していく視点は希薄であった。